

派遣労働者が感染症に罹患した場合の対応

発熱や下痢・嘔吐など感染症の症状を認めた場合は、出勤を控え、所属長へ電話で連絡を行う。

（１）インフルエンザの場合

①発症後５日間（発症日を１日目とする）就業を停止する。発症後４日目に解熱を認めていない場合は、解熱後２日間を経過するまで就業を停止する。

②インフルエンザ患者に濃厚接触した場合や、同居家族にインフルエンザの患者が発生した場合、派遣労働者自身に症状を認めなければ就業可能だが、潜伏期間（１～３日間）はマスクを着用のうえ手指衛生を励行し、症状出現に十分留意して勤務する。

（２）新型コロナウイルス（COVID-19）の場合

①発症日翌日より５日間（発症日を０日とする）かつ解熱および症状軽快から２４時間経過するまで就業を停止する。

②発症後１０日目までは感染リスクが残存しているため、マスクの着用や手指衛生など基本的な感染対策を徹底し業務に従事する。

特に患者がマスクを外す口腔ケアや食事介助等のケア・処置は、１０日間経過するまで担当しないことが望ましい。

③新型コロナウイルス感染症患者に濃厚接触*した場合や、同居家族に新型コロナウイルス感染症が発生した場合、自身に症状を認めなければ就業可能だが、潜伏期間（患者と最終接触した日または家庭内で感染対策開始日から７日間）はマスクの着用や手指衛生を励行し、症状出現に十分留意しながら所属長の指示に従い、業務に従事する。

*濃厚接触：お互いにマスク無しで３分以上、またはどちらか一方がマスク無しで１５分以上接触した場合。

（３）ウイルス性の感染性腸炎（ノロウイルス腸炎・ロタウイルス腸炎）の場合

下痢や嘔吐を認めている期間は就業を停止する。下痢や嘔吐が改善すれば就業は可能だが、症状改善後もウイルス排泄は約１か月続くため、その期間は衛生的な手洗いを励行する。

（４）流行性角結膜炎の場合

専門医の診察を受け、周囲への感染の可能性がないと判断されるまで（約１４日間）就業を停止する。

(5) 水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎の場合

罹患した場合の就業停止期間を以下に示す。

表Ⅸ-2. ウイルス疾患罹患時の就業停止期間

水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
麻疹（はしか）	発疹出現後5日間を経過するまで 発疹出現後5日間を経過しても発熱を認めている場合は 解熱後3日間を経過するまで
風疹	発疹出現後5日間を経過するまで
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	耳下腺腫脹9日間を経過するまで

免疫のない派遣労働者が曝露した場合、発症する可能性が高いので以下の表のように対応する

表Ⅸ-3. ウイルス疾患曝露時の対応

水痘（水ぼうそう）	最初の曝露後10日目～最後の曝露後21日目まで就業停止する。発症した場合は、上記表に準ずる。
麻疹（はしか）	最初の曝露後5日目～最後の曝露後21日目まで就業停止する。発症した場合は、上記表に準ずる。
風疹	最初の曝露後7日目～最後の曝露後21日目まで就業停止する。発症した場合は、上記表に準ずる。
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	最初の曝露後12日目～最後の曝露後26日目まで就業停止する。発症した場合は、上記表に準ずる。

(6) その他の場合

①マイコプラズマ感染症：肺炎や発熱を認めている場合は就業を停止する。

軽度の咳が場合は、マスクを着用し手指衛生を励行する。

②手足口病：発熱を認めていなければ、マスクを着用し就業可能。ただし、手に発疹を認めている場合は所属長に相談する。

③ヘルペス：発疹部位を衣服等で覆うことができれば就業可能。病変を手に認めている場合は所属長に相談する。

④原因がはっきりしない発熱：なんらかの感染症である可能性が高いため、解熱後24時間経過するまで就業を停止する

- ⑤その他感染症状を認める場合や、なんらかの感染症の診断があった場合の就業に関する疑問は所属長に相談する。